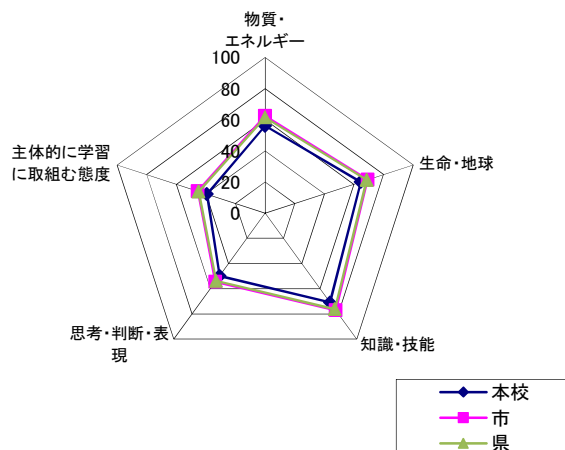


# 宇都宮市立宝木小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.1	62.5	61.5
	生命・地球	64.6	69.2	68.6
観点	知識・技能	70.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	49.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	39.3	45.5	44.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。</p> <p>○風やゴムのはたらきの問題では、車の動きと風の向きや強さの関係を問う設問で正答率が84.5%と高く、県と同等である。</p> <p>○音の性質の問題で、糸電話の音の伝わり方を問う設問では、正答率が7割を超え県と同等である。</p> <p>●電気の通リ道の問題で、おもちゃの構造から回路を構想する設問では、正答率が5割を下回っている。</p> <p>●物の重さの問題で、種類の異なる物質を同じ重さにしたときの体積を問う設問では、正答率は県と同等ではあるが、2割と低い。</p> <p>●磁石の性質の問題では、どの設問の正答率も県を下回っている。</p>	<p>・理科における基礎的基本的な内容の定着が不十分であると考えられる。体験と目的、現象と原理を結びつける指導を繰り返し行い、基礎基本の定着を図っていく。</p> <p>・学んだことをもとに結果を推測する問題の正答率が低いことから、実験から分かることを十分に理解できていないことが考えられる。実験後の考察を書く時間を確保し、理解を深められるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。</p> <p>○身近なげんのかんさつの問題では、こん虫のすみかや記録カードの書き方についての設問で正答率が県の平均とほぼ同等であった。</p> <p>○植物の育ち方問題では、植物のからだのつくりや育つ順序についての設問に対する正答率が県とほぼ同等であった。こん虫のからだのつくりの設問も、正答率が県とほぼ同等であった。</p> <p>●太陽と地面のようすの問題では、日なたと日かげの温度の違いについての設問に対する正答率が28.2%で県の平均より下回っている。また、太陽のある位置と影のでき方の関係についての設問に対する正答率が40.9%で県の平均より下回っている。</p>	<p>・身近な植物やこん虫のからだのつくりや育ちなどの理解はされているが、虫眼鏡の使い方の理解が不十分であったので、観察の方法についても定着を図れるよう、授業の中で繰り返し行っていく。</p> <p>・記述や短答の問題の正答率が低く、無回答の割合も高い。授業の中でも実験のまとめを自分の言葉でまとめる時間を設け、文章で表現する力を身に付けさせていく。</p>